【医療】１　補足資料　家族の体験談

体験談－１　家族の想い　いつになれば・・・・　城東区 家族会会員

●入院までのたらいまわし
当事者である息子が発症したのは１８年前のことでした。病名は統合失調症。
一番　家族である私がつらかったのは、なかなか入院することができなかったことです。
最初は引きこもりで半年間続き、躁状態になり大声で叫び、暴言を浴びせる。家の壁を叩きまくる。
保健センターに相談に行くのも断られてしまい、センター内に相談で来られている精神科の先生にも、「最初に相談してください。」の一点張り。
息子が当初入院できたのは、自衛隊に勤務していて寮生活。首には縄で縛ったと思われる傷、手にはナイフで切りつけた、痛々しいほどの傷があり、それで同僚の人たちにより強制入院に。なので、勤務していれば一応入院はできるのですが・・・
半年後は転職してしまい、家に帰ってからは　通院もできなくて引きこもりで寝てばかりの生活。事情をいくら説明してもわかってもらえず、精神科の先生と保健センターの担当者からは追い出すような感じで！
不安になり帰ったことはいまだに忘れることはできません。
またそんな中で倒れる事態になり、救急車で病院に運んでもらうことに。それで院内のソシアルワーカーさんだったと思いますが、その方の力添えで、精神科の病院へやっと入院へ。

●説明のない身体拘束３か月
しかし、入院したらしたで保護室へ、２，３日後病院へ行くと、身体拘束された息子の姿が・・・
そのことに関して先生からの説明はなく、看護師さんから、下の階へ飛び降りようとしたために拘束されたとの説明が。
拘束は３か月間続きました。本人はとてもつらかったことでしょう。

●退院後、病状悪化しても冷淡な保健センター
入院から退院できたのは、半年後。　それからは落ち着いていましたが。
やがて、３年後、今度は薬が飲めていないことで、わずかの間にイライラから、症状がきつくなり、また激しい暴言と大声で叫び、ものを叩く。再度入院するには、私一人では無理。それで再び保健センターに相談に。
しかし、相変わらずの対応。
実際に、症状の激しいときはこちら側の命が危ういこともあったり大変なことも。また、他の人を傷つけたりしたら当事者さんたちは、犯罪者になってしまう。そんな思いを担当者たちはどう思い、責任を取ってくれるのか？
最終的には警察も巻き込んで入院することができました。
しかしながら、保健センターの人にも手伝ってもらっての入院だったので、感謝しても当たり前かもしれませんがそれができません。それは私が傷つく言葉や突き放す対応が多々あったから。
傷つくことは、息子に大声で叫ばれ暴言の激しいときに、私が息子にわけのわからないことを言われ、周囲への挨拶ができなくてその話をすると保健センターの担当者に、「そんなこともできないの」と言われたこと。
保健センターグループワークに参加するために事前に相談員面接に来るようにとのアポイントをとり、当日行ったのに、業務があるとのことで、相手にされなかったこと、家族教室参加も申し入れると、病院家族教室に参加するようにと参加を断られたことなど、忘れることはできません。

担当者は「忙しい、忙しい。」と言いながら用事で行けば、私語が多く常に笑い声があり　あれから月日は経っていますが少しは変わっているのでしょうか？せめて、大変なときの入院くらいは気持ちよく協力してもらいたいです。

体験談－２　北区 家族会会員

●たらいまわしの対応
現在 40 歳になる長女、について最も過酷だった時期の経験をお伝えしたいと思います。
中二の秋の引っ越しをきっかけに不登校になった後、20 歳までは一応高校に入学、1 か月も通えず　　中退、その後昼夜逆転、アルバイト、好きなミュージシャンの追っかけ、引きこもった時期、親子間の激しい言い争い、オーバードーズや、精神科もあちこちにかかる、など怒涛の 10 数年の後　発達障害の診断を受けて、「広汎性発達障害」と診断されてから、もともとの夢だった服飾の勉強をしたいと、高卒認定に挑み、服飾専門学校に入学しました。(29 歳)
同級生とは 10 歳の差、毎日通うのは１４～５年振り、課題は多い、期限は次々と迫る厳しい学生生活に 1 年の秋から様子がおかしくなりました。
提出物は間に合わず、授業の進展にはついていけず、クラスメイトにはなじめず母親に「誰かが悪口を言ってる。」「ずっと誰かに見られている。」と訴えるようになり、もともと診てもらっていた精神科に相談しても、「発達障害だからそんな学校は無理だったんだ。」と一蹴され、娘の不穏な時のみ頓服を処方するだけで入院を打診しても「彼女には厳しすぎて、かえって病状が悪化する。」と言われました。(30 歳)
「自分が自分で無くなっていく。こわい・・」と言うようになり家の中をうろうろ歩き回るのが止まらなくなり、服の着方を忘れ、食事もとらず、自室で寝るのを怖がり、お風呂も入れない日々が続き保健所にも相談しましたが、「医療につながっているならそちらに相談するように。」と言われ何度電話をしても同じ答えでした。

●救急搬送の紆余曲折
その後救急搬送で市内の精神科病院に入院したが、周りの人たちを怖がって 1 日で退院。その後 2 か月は頓服薬や、新たな精神病院を探しかかりつけの内科医に紹介状を貰い受診したが、発達障害は入院したら悪化する。と断られやむなく救急搬送の病院に受診を 1 年続けた後、通うのが遠いのを理由に自宅近くの発達障害に詳しい個人病院に変わりましたがその後医師とあまり合わなかったのか服薬も通院も渋りだし、母親が代わりに薬を貰いに行ってたが、徐々に不穏になり医師に相談し任意入院のつもりで民間救急車を頼み 1 度目は本人が納得せず断念。2 か月後さらに「上の階で殺人が起こっている。」と言って玄関から何度も飛び出す、ベランダや自室から物を放り投げるなどするので、再度民間救急に搬送を予約し早朝に乱暴な方法でしたが介護士の人たち 3 名によって大きなシートに包まれるようにして無理やりに救急車で入院しました。

●過酷な身体拘束と保護室
医療保護入院の手続きを済ませ両親は帰宅させられその翌日に行くと隔離病棟で 3 点拘束されていました。私が面会の時だけは外してもらえたので、大きな娘を膝に座らせ落ち着かせるので拘束が解かれるまで　ずっと通って娘を抱きかかえました。次に替わった部屋は四角い部屋の上の方だけの小さな窓と部屋の片隅に間仕切りもない便器だけのトイレがあり、部屋はその匂いが拡がり、扉には小さな覗き小窓のみ。部屋の端には監視カメラ。ベッドはなくマットだけが置かれ娘はそのマットレスを部屋の隅に立てかけてそこに隠れていました。監視カメラがあるからと。
食事は段ボールの上で。トイレがむき出し。のぞき窓のみ。
入院以来「ここの人はセクハラする。」と言っていたがおそらく、拘束の時男性看護師の方達にも押さえつけられたからではと推測されましたが、私からそれについて尋ねることは出来ませんでした。

●退院後の不安定さと家族の孤立
このＳ病院は 6 か月が限界と余儀なく退院させられ、その後通院しましたが片道電車で４０～５０分の間、両親が付いていても目が離せないくらい落ち着きがなく、自宅での暮らしも外出時、制服姿や体格のいい男の人に殴りかかりそうになる、怒鳴る、など服薬しているのに薬が合っていないのではないかと医師と相談しましたがなかなか調整が効かずその時に医師からの提案で年金も再申請したら 2 級から 1 級に認定されました。その頃の娘に私は入院前とは一段と違う違和感を感じていました。何故、こんなに怒り易くなってしまったのか？と。ちょうどその時にみんなねっとの特集の中に、入院中に受けた拘束や閉鎖病棟でのトラウマがその後に、暴言や暴力的な行動を起こし易くなると解ってきたという論説を読み、娘が怒りを向けてい

る本当の対象は私たち家族や制服姿の人たちではなく、自分が受けた辛かった経験や苦しさがマグマのようになり、その怒りを吐露するように表出させているんだと思いました。母親に暴力をふるう。
そして、退院から約 6 か月間、２０１８年夏頃から秋まで毎日マンションのあちこちのお宅を勝手に訪ねて「私の子どもが迷子です。」と言ったり、マンションの植栽に自分の持ち物を隠したり、バルコニーから自分の大切な本や物を投げたり、勝手にネットで高額な買い物をしたり、一人で飛び出して行っては外で踊ったり、などの毎日が続き、日中は主人は会社勤務で不在の為、私は自宅での仕事も断わらざるを得ず、玄関ドアには開くと音楽が鳴る機械をつけて工夫しながら、母一人で娘を見守る生活が続いていました。

●家族会と訪問看護サービスにつながったが
そのころ私たち家族と唯一外部とのつながりは訪問看護サービスでした。娘は入院前は拒否だったのが入院中に幾度となくその看護師さん達の訪問を受け「友人」と思った様でした。私が息をつけるのはその看護師さんの訪問中の間だけでした。日中はどこへ行くのも連れていく他なかった時期、娘は尿意のコントロールが効かず、お店で粗相をしたり、公園のトイレを見つけるとそこへ向かいながらはいてるものを脱ぐようにしながら走ったり、想定外の行動がよくありました。
そして退院から約 6 か月後、２０１８年 11 月、数日前から少し落ち着いていた娘をよく言って聞かせ、午前中 3 時間だけの診察の為に家において出かけました。その外出中、私は出かけている間も何度も電話で話しかけ　　娘の部屋の前の外廊下の話し声で引き起こされたのかは未だに不明ですが、激しい幻聴と妄想で自宅を飛び出し隣人に怪我をさせてしまい「もうすぐ帰るよ。」と携帯で話しても「ママを迎えに行く。」と家を出て携帯はつながっているのに「ママを守らなあかんから。」と言いながらすれ違う人に次々に向かっていき結局ほか 2 件のトラブルを起こし電話が切れてしまいやっと電話が繋がったと思ったらパトカーのサイレンが聞こえ　結局警察に連行され措置入院しました。
次の入院先は北摂で自宅から 1 時間かかる精神科単科でした。

●的確な診断との巡り合いと一人暮らし開始
措置入院 2 か月、医療保護入院数か月を経て、薬もしっかり合わせてもらい、コロナの時期までは外泊をしたり病院近辺に家族で散歩や食事もしたり私も親としての支援の仕方を学んだり。家族会でも皆様からの知恵と元気を頂きながら娘は 4 年 2 か月の入院生活を経て２０２３年 1 月にグループホームに退院入居しました。

現在グループホーム生活も 3 年目に突入しました。共有の部屋での食事は、「拒否」ですが、お仲間と挨拶は出来て、世話人さんに掃除も頼める、やっと少しずつ周囲の方との関わりが深まりつつあるところですが、あの厳しい状況のころ私たち家族には誰も「見守る人」はいませんでした。私たち家族は「これ以上迷惑をかけられない。誰にもかけるべきではない。」たった一人の娘の兄弟ですら「精神病への恐れ」から離れていました。どこに手を伸ばして良いかも判りませんでした。ヘルパーは使えませんでした。訪問看護も見守りは出来ません。保育所の様に預かってくれる所もありません。ある時、保健センターの所長さんに言われた言葉が忘れられません。「お母さん、福祉は取りに行くものですよ。じっとしていても降ってくるようには得られませんよ。」
それから私は娘の為にこの病気に必要な手助けを得るためには懸命に学ばないといけないんだ。と心しました。でも手を伸ばしてもなかなか、しっかりと掴めるものを感じません。

●当事者と家族を誰が守ってくれるか一実働的な責任ある支援チームが欲しい
まだまだ、探し方が悪いのでしょうか？もっともっと、色んな障害物をかき分けながら探し求めないとあの日のようにどこにも、誰にも助けを得られなかった「私たちと同じような立場にいる家族」は残され続けるのでしょうか？

家族会では警察の「生活安全課」が頼りになると話題に出ます。実際医療へ結びつくのもそのケースが多いのが実情です。が、実際本当に厳しい状況になってやっと警察に辿り着くしかないという現状で、そこに行きつくまで日々葛藤し、身動きできない生活に苦しみ孤立する精神障害者当事者とその家族を地域である大阪市、または各区単位で支えて見守っていくための、実働的なチームを作って頂きたいと切に望みます。